第5章 中央製作所Ⅲ

昭和61年～平成14年

常務取締役　菅原博氏に聴く

～新たな幕開け、地道な発展～

菅原 博

昭和の終期から平成の初期はバブルの時代、鉄構業界も好景気に沸きますが、やがてバブルがはじけ不況の時代に入っていきます。そんな折佐々木郁夫社長の長男史昭氏が東北大学工学部卒業して住友金属工業に勤務の後、平成6年に中央製作所に入社されました。史昭氏は有能な若手技術者として働き、後に中央製作所の専務取締役、そして中央コーポレーションの社長となり、会社は新たな発展を遂げました。その時代を共に過ごされた菅原博さん（現常務取締役）にその様子をお聞き致しました。

花巻市道地橋 ボルト締結式の様子

旧日本道路公団鞍掛橋

菅原様は昭和51年の入社ですが、会社の姿や歴史をどのように見ていらっしゃいますか。

一言でいえば、昭和50年代の中央製作所は、人格者で率先垂範の佐々木郁夫社長のもと、腕のいい職人肌の従業員たちが居て、引き受けた仕事は徹夜してでも納期に間に合わせるという気概を社風とする会社だったと思います。

また、会社経営の歴史は、高度経済成長の波に乗り成長し、オイルショックに揺さぶられ、バブルに乗って事業を拡大し、バブルがはじけて呻吟し、高度な技術の習得に励み、仕事の精度を高めて信用を得、徐々に大型工事の受注が実現するなど、その時々の社会経済の変化に揉まれながらも懸命に対応し、地道ながらも着実に発展を遂げてきたと言えるのではないでしょうか。

昭和61年から始まったバブル期、当時はどんな様子でしたか。

オイルショック後はその影響で会社経営は厳しいものだったと思いますが、昭和55年頃に当時の国鉄から

新幹線関係の仕事を数多く受注し、日本道路公団からも東北自動車道の工事を受注出来たことは何よりだったと思います。その後も、花巻市の橋梁や岩手県の照明鉄塔、スノーシェルターのほか、徐々に橋梁や鋼構造物工事の元請受注が増えていきました。

平成に入ると、岩手県の鉄構業界もバブル景気に沸き始めます。当社は鉄骨工事が少なく他社に比べ利益が少なかったように記憶しておりますが、旧来のお客様優先の工事受注の結果であったと考えます。

その後も、公共工事の元請や鉄道関連工事の受注が増え、岩手県の建設関連重厚長大産業の担い手として、大型の社会資本整備を担える会社へと成長して参りました。

JRすみ肉溶接技量試験

事業が拡大すればするほど技術習得も必要だったでしょうね。

私達の仕事は「技術あってなんぼ」ですから、常に新しい技術の習得は不可欠でした。

これまでも会社は新しい技術習得のため、社員を県の工業試験場や仙台、東京での講習会に積極的に派遣し技術・技能の習得に努めて参りました。

その中で平成7年の「JRすみ肉溶接技量試験」（列車荷重が載荷される重要構造物の製作に必要なすみ肉溶接技量資格）は圧巻でした。多くの鉄道工事の実績をもつ大手橋梁メーカーでも大変難しいとされるこの試験において、初回の合格者なんと10名という快挙でした。これから東北においても鉄道桁の溶接が出来る会社があってほしいというニーズがあってのことだったと思いますが、秋田新幹線に関わる田沢湖線の鉄道桁改修工事をてがけさせて頂きました。

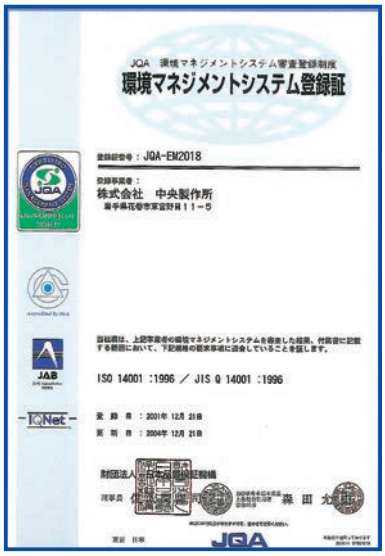
JRすみ肉溶接技量試験の計測状況

これが今でも続く東日本旅客鉄道株式会社様向けの「列車荷重が載荷される重要鋼構造物」製作の始まりであり、以来鉄道工事桁、本線鉄道桁、JES-HEP工法に於ける鋼製エレメント、バックルプレート桁改修工事など、数々の重要鋼構造物の製作実績を積ませて頂いております。

もうひとつ紹介したいものがあります。それはISO認証です。会社も発展し、大型工事も受注できるようになり、

JRすみ肉溶接技量試験最終会議

ISO9002認証取得時の登録証



当時のISO14001登録証

技術も高度化してきました。このような状況に対し、佐々木郁夫社長が国際標準に合わせた技術習得・品質管理を図ってみてはとの考えを述べられたことから、国際標準化機構による品質保証規格であるISO認証に取組むことになりました。

幸い平成10年にISO9002認証を取得することが出来ましたが、これは鉄構業界においては東北で初めてのことでした。

その後、平成12年にはISO9001認証を取得致しました。

さらに、平成14年には環境管理の国際規格であるISO14001を取得し、品質管理と環境管理のマネジメントシステムを構築し、良質な製品の生産と確かな工事施工が出来る会社へと発展してきたように思っております。

この頃には人事評価制度も確立し、恣意的なものが排除され、公正さが保たれた会社へと変化してきたように思われます。

腕に技術を持った皆さんは仕事もバリバリだったでしょうね。

そのとおりです。平成元年から平成5年にかけては、屋外運動場等の照明鉄塔の製作設置工事が多かったですね。平成2年の花巻市営野球場の照明塔製作設置工事をはじめ、茨城県、埼玉県、宮城県など各地でナイター設備の設置をやって参りました。その中で一番大型だったのは、平成4年のJリーグ創設に関わる、住友金属工業様向け鹿島アントラーズサッカースタジアムの照明塔製作設置工事ですね。

旧鹿島サッカースタジアム照明塔（旧住友金属工業様向け）

高さ44m、重量80tの製品を4基当社工場で製作し、現地に運搬、400tクレーンでそれぞれ設置しました。設置工事自体が非常に難しい工事でしたが、照明柱本体溶接部のX線検査結果が非常に良く、同時に施工した鉄骨の超音波検査も良好であったことから、元請建設会社から大いに褒めらました。

このほか、これまで製作したことのなかった厚板による螺旋形構造「泉中央駅ペデストリアンデッキ螺旋階段」製作、東京鉄骨橋梁様向け「首都高速道路向け鋼床版箱桁

製作工事」、東京農業大学校舎のSRC鉄骨製作、さらには当時の建設省三春ダム工事事務所の元請工事で「三春ダム大滝根ゲート設置工事」など、遠隔地の数々の難工事に大変良く頑張ってくれたものだと今でも感謝しております。

地元工事も多く手掛け、平成6年花巻市第二庁舎鉄骨工事、平成7年には花巻市総合体育館低層棟鉄骨製作、平成8年には花巻市不動大橋のニールセンローゼ形式の橋梁の主構造を製作、さらにJR田沢湖線雫石新駅の鉄骨工事、平成9年には豊沢ダム取水ゲートの老朽化に伴うスピンドル交換や胆沢第二発電所の水門設備点検などの設備点検業務も行ってきました。

地元のみならず東北や関東までの工事において、それぞれが新しい技術が必要な大型工事であり、勉強しながらの製作、設置工事は大変苦労しましたが、それ故に喜びも大きかったですね。

花巻市役所第二庁舎

花巻市不動大橋（横河ブリッジ様向け）

バブル崩壊から会社が這い上がる時期に現在の社長佐々木史昭氏が入社されました。どんな仕事振りでしたか。

現社長の佐々木史昭さんは平成6年の入社です。昭和61年に東北大学工学部を卒業され住友金属工業に入社、8年間橋梁設計と橋梁製作を手掛けられ、当社に入社されました。入社当時はバブル崩壊が一段落し始めた頃で、会社経営も右肩上がりだった時代とは違っていました。そのような中での入社で、かなりの意欲と覚悟を持って入ってこられたと思いますが、現実との狭間で苦労されたかも知れません。

しかし、会社に新しい風を吹き込んでくれました。第1に前職の住友金属工業時代の実績を活かしての仕事の受注です。先にお話し致しました大型工事の受注などは史昭さんのお力によるものが多かったですね。

第2は受注のあり方が変わり始めました。これまではどちらかというと下請けが主流だったのですが、史昭さんの努力で国や県、そして市の元請工事受注に対して、それまで以上に注力し、受注が出来るようになりました。

平成6年に県の大型工事を3件も受注したことは初めてのことでした。ただ、元請工事が入るようになったこと

岩手県豊沢ダム

現在の岩手県企業局胆沢第二発電所

現在のラック式サーバー

登録証

株式会社中央コーポレーション

JIS Q 9001:2008（ISO 9001:2008）

エイエスアール株式会社

小林 克也

現在のISO9001の登録証

長さ130mを超える花壇

羽黒排水路アドプト協定書

水土里ネット豊沢川

平成18年3月15日

株式会社中央コーポレーション

花巻市

豊沢川土地改良区

アドプト協定書と活動状況

から、資材発注ルートが今までとは異なり、最初は戸惑う事もありましたが嬉しい悲鳴を挙げたものです。

第３はIT技術の導入です。これまで会社のパソコンは事務処理や業務管理に活用していたのですが、あくまで係単位での活用でした。それを１人１台導入し、社内文書の統一化やメールの活用により、仕事の効率が数段上がったと感じたものでした。

そして何よりも会社にとっての大きな貢献は、時代に先駆けて確かな技術習得の取組を行ったことです。先に話しましたJRすみ肉溶接技量資格の取得も、ISOシリーズの認証取得も史昭さんのお力によるところが大きかったと思います。佐々木郁夫社長の考えもあった訳ですが、当社の発展に欠かせない技術力をつけるために率先して事に当たって頂いたと思っております。

仕事も順調で会社も新たな発展を遂げられ何よりですが、近年企業の地域貢献が話題となっています。その点はどうでしょうか。

当社はもともとそのような考え方をもっている会社でありました。私が入社する前から、国道４号線沿い長さ130mにわたる花壇を社員で協力し合って整備し、花巻市の花いっぱいコンクールで何度も表彰を受けておりますし、建設省岩手工事事務所長からも表彰されています。平成10年８月１日には建設大臣から感謝状を、平成14年８月10日には日本道路協会会長より表彰状を頂戴しました。一巡したわけでもないでしょうが、平成23年には花巻市長から、平成24年８月24日には岩手河川国道事務所長より改めて、感謝状を頂戴しております。

また平成18年には、花巻市、豊沢川土地改良区、当社の３者で「アドプト協定」を結び、当社近辺の農業用排水路や水辺の環境整備を行っております。これは年に数回、水路付近の草刈りと水路内のゴミや雑草の除去を社員がボランティアで行っており、地域の一員として、地域の皆様のお役立てばとの思いで毎年続けております。

また、毎年10月４日は当社の創立記念日にあったっていますが、当社が整備をした橋梁に限らず、市内の橋梁の

主だったところを、年により異なりますが 10 ～ 20 橋程度、点検や清掃活動等を行っております。この活動は橋梁整備に携わっている橋梁技術者を抱える地元企業として、当社ならではの地域貢献活動を意識して、2000 年から毎年行っており、花巻市が行っている橋守制度においても全面的に協力しています。

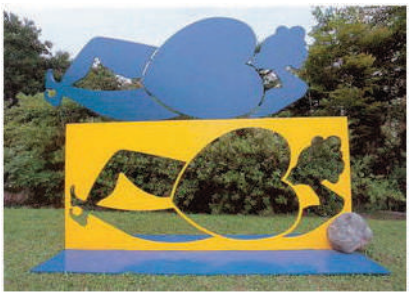
また 400 年を超える伝統を誇る地元の花巻祭りにおいて、当社は独自で毎年御神輿を担ぎ、御輿パレードに参加しております。社員及び関係者等約 100 名あまりの参加者で花巻祭りを大いに盛り上げています。

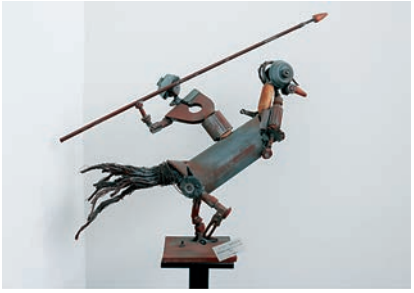
平成 14 年に日韓ワールドカップサッカーが開催された年には、郁夫社長の次女まり子さんが韓国人芸術家李準浩氏と結婚されてニューヨークにお住まいで、日韓共催の気運も高まり、花巻で韓国人芸術家と岩手県の芸術家がコラボレーションするイベント日韓芸術祭が開催され、当社もサポート致しました。実行委員会事務局長を当時専務史昭氏が務めており、著名な韓国人芸術家が当社に 1 週間ほど滞在して当社で社員とコラボレーションし、製作、塗装、現地据付をするという貴重な体験も致しました。

様々な形の社会貢献活動は社会インフラの整備に携わっている地元企業として、地域への感謝を形に表す貴重な機会として、これからも続けられていくことでしょう。

花巻市橋守制度に基づく橋梁の点検・清掃

花巻祭 神輿パレードの様子





2002年 日韓芸術祭の作品